

令和4年度 第10回下野市教育委員会定例会議事録

日 時 令和5年1月12日（木）午後1時30分～午後3時30分

会 場 下野市役所3階 304会議室

出席委員 教 育 長 石崎 雅也 職務代理者 永山 伸一
委 員 熊田 裕子 委 員 石嶋 和夫
委 員 佐間田 香

出席職員 教育次長 近藤 善昭
教育総務課長 上野 和芳
学校教育課長 石島 直
生涯学習文化課長 浅香 浩幸
文化財課長 山口 耕一
スポーツ振興課長 若林 毅
教育総務課課長補佐 神田 晃
学校教育課課長補佐兼指導主事 稲葉 亜希恵
教育総務課主事 慶留間 遥

公開・非公開の別 公開（一部非公開）

傍 聴 者 0 人

報道機関 0 人

議事録（概要）作成年月日 令和5年2月17日

議 事

- 議案第29号 令和4年度下野市教育委員会表彰被表彰者の決定について
議案第30号 令和5年度下野市スクールアシスタントの任用について
議案第31号 令和5年度下野市教育相談員の任用について

協議事項

- (1) 令和5年度学校教育計画（案）について

報告事項

- (1) 寄附の受入れについて
(2) 令和4年度第1回下野市総合教育会議について

その他

- (1) 第15回下野市教育のつどいについて
- (2) 下野市教育委員と保護者との懇談会開催について

1. 開会
2. 教育長挨拶及び報告

(石崎教育長)

12月19日から本日1月12日までの職務について報告する。

- ・ 12月20日、国分寺公民館大ホールにて第4回公民館運営審議会が開催された。公民館評価に係る協議や、例年実施している「公民館まつり」に代わるイベントである「自主サークル発表会」についての説明があった。
- ・ 同日、教育委員の学校訪問として、石橋中学校を訪問した。
- ・ 12月21日、死亡叙位伝達式を実施した。
- ・ 同日、第65回新型コロナウイルス感染症対策本部定例報告会議が開催された。栃木県新型コロナウイルス感染症対策本部会議の協議内容や、市主催の1月から3月までのイベント調査結果等の報告があった。
- ・ 12月22日、後期第2回下都賀地区教育長部会が開催された。年度末退職者の確認や校長候補者案の審議等を行った。
- ・ 同日、市職員提案審査委員会が開催された。職員からの各種提案のうち、施策提案の10件について審査を行った。
- ・ 12月23日、小中一貫の日(市教育委員会)を開催した。各中学校区担当の指導主事から、進捗状況の報告並びに、市の推進計画や成果指標の設定等についての協議等が行われた。
- ・ 1月4日、市仕事始め式が行われた。坂村市長から幹部職員に対し、年頭の訓示が行われた。
- ・ 同日、後期第3回下都賀地区教育長部会が開催された。校長異動案や教頭候補者案等の審議を行った。
- ・ 1月5日、市教育委員会部内会議を開催した。
- ・ 同日、令和5年度当初予算市長ヒアリング(教育委員会)が行われた。市長、副市長、財政課職員に対し、次長、各課長が説明を行った後、市長査定を受けた。
- ・ 1月6日、市スクールアシスタント採用試験を実施した。応募があった4名について、面接官6名で面接を行った。
- ・ 同日、グリムの里新春書きぞめ大会席書大会並びに審査会が、石橋体育センターにて3年ぶりに開催された。なお、昨年度は指定された期間内に送付された作品を審査する形式で実施した。幼稚園生から高校生まで約100名の子どもたちが、20分間で3枚の席書を行った。大会に引き続き、書道家の先生2名、文化協会長、教育長の4名で審査を行い、総務大臣賞、文部科学大臣賞を始め、各賞の受賞者を選出した。

- ・ 1月8日、市二十歳のつどいが開催された。対象者641名のうち478名が出席し、市内3会場で挙行された。出席率は74.57%であった。
- ・ 同日、市年輪のつどいがグリムの館にて開催された。対象者のうち60名が出席した。
- ・ 1月9日、天平マラソン大会が現地開催される予定であったが、コロナ禍により3年連続の中止となった。なお、昨年度からオンラインで天平マラソンを開催している。
- ・ 1月10日、後期第4回下都賀地区教育長部会が開催された。教頭異動案や教務主任候補者案、他管人事交流案等について審議を行った。教員の過員状態についても話題に挙げられた。
- ・ 同日、市賀詞交歓会が実施される予定であったが、コロナ禍のため3年連続で中止となった。
- ・ 1月11日、第8回市定例校長会議を開催した。年度末始めの各種調査・報告依頼、ALTその他各種職員配置の説明等を行った。
- ・ 同日、庁議が開催された。
- ・ 同日、第3回市コンプライアンス推進本部会議が開催された。

以上の報告内容について、質疑等はあるか。

(熊田委員)

産休や育休で教員が休みになったとき、臨時採用の教員が足りず、その穴を埋められない状況が続いていると聞いている。先ほど教員の過員状態についての話があったが、過員となった教員を産休・育休代替教員として配置することはできないのか。

(石崎教育長)

熊田委員が述べた内容について、私たちも県に強く要望しているところである。

昔は産休・育休代替教員として本採用教員を配置していたこともあったそうである。近年、臨時採用教員が足りず、産休・育休の穴を埋めるのが難しくなっているため、昨年度、今年度と引き続き本採用教員を産休・育休代替教員として配置してもらえよう強く要望しているのだが、県の教育委員会からは「それはできない」との回答があった。

もし機会があれば、このことについてぜひ教育委員の皆様からも強く要望をしてほしい。

他に質疑等はあるか。(特になし)

3. 議事録署名人の選任 熊田委員及び石嶋委員を指名

4. 前回議事録の承認

(石崎教育長) 前回議事録について、事務局に説明を求める。
(神田教育総務課課長補佐) 令和4年度第9回教育委員会定例会の議事録について、修正箇所の説明を行う。
(石崎教育長) 質疑等はあるか。(特になし)
議事録はこのとおり承認とする。

5. 議事

(石崎教育長) 議案第29号から第31号については、個人情報に関する案件なので、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項」の規定により、非公開として進めたいと思うが、よろしいか。(全委員異議なし)
それでは、議案第29号から第31号については、非公開として進める。
まず、議案第29号 令和4年度下野市教育委員会表彰被表彰者の決定について、説明を求める。

以下、非公開

(石崎教育長) 議案第29号を決定してよろしいか。(全委員承認)
議案第29号は原案どおり決定する。
続いて、議案第30号 令和5年度下野市スクールアシスタントの任用について、説明を求める。

以下、非公開

(石崎教育長) 議案第30号を決定してよろしいか。(全委員承認)
議案第30号は原案どおり決定する。
続いて、議案第31号 令和5年度下野市教育相談員の任用について、説明を求める。

以下、非公開

(石崎教育長) 議案第31号を決定してよろしいか。(全委員承認)
議案第31号は原案どおり決定する。
ここで非公開を解く。
続いて、協議事項に移る。

6. 協議事項

(石崎教育長) (1) 令和5年度学校教育計画(案)について、説明を求める。
(石島学校教育課長) 令和5年度学校教育計画(案)について、担当から説明する。
(稲葉学校教育課課長補佐) 資料「令和5年度下野市学校教育計画(案)」を基に、努力目

標や目標に対する具体策の変更部分を中心に説明を行う。

(石崎教育長)

質疑、意見等はあるか。

(熊田委員)

「6 自分の生き方を考えるキャリア教育の推進」(1)①ウの部分に「異年齢や異校種間での集団活動や交流を行う」という文言がある。異年齢は理解できるが、異校種間というのは、小学校と中学校のことを指しているのか。

(稲葉学校教育課課長補佐)

小中一貫教育においても、小中学生の交流活動を行っているため、小学校と中学校をイメージして文言を作成した。

(熊田委員)

元々下野市では小中一貫教育を掲げているため、小学校と中学校の交流は前提にあると感じている。「異校種間」と書いてあると、もっと別の学校と交流活動をするように感じてしまう。教育委員になってから、下野市では小中一貫教育を推進するという何を何度も聞いているため、小中学校の交流という意味合いで「異校種間」という表現を使うと、小中一貫教育と重複する部分が出てきてしまう。

(石崎教育長)

熊田委員の意見に付け足す。小中学校の他に、市内には義務教育学校もあるため、「異校種」とは何なのか、わかりにくくなってしまっているように感じる。

(稲葉学校教育課課長補佐)

「異校種」という表現だと、高校などのことを指しているように感じるということか。

(熊田委員)

そのように感じたため質問した。これを読む先生方が分かるようならば良い気もするが。

(石崎教育長)

表現について検討するよう事務局に求める。

他に質疑、意見等はあるか。

(石嶋委員)

この「令和5年度下野市学校教育計画」は、主に教職員が読み、利用するということでよろしいか。

(稲葉学校教育課課長補佐)

そのとおりである。

(石嶋委員)

学校教育計画の内容を変えるときに、校長会だけではなく、人権教育担当の教員や道徳教育担当の教員の意見など、それぞれの担当教員の意見は聞いているのか。

(稲葉学校教育課課長補佐)

担当者の意見は吸い上げられていない。

(石嶋委員)

修正部分をまとめる時間が短いため仕方がないと思う。

今回学校教育計画に目を通して、校長や教頭以外の先生は、この全文を読まないのではないかと思った。学習指導の先生ならば、新しい全体計画や年間指導計画を立てるために「学ぶ力を育む学習指導の推進」の部分を重点的に読むというように、人権教育、道徳、健康安全教育など、それぞれの分野の先生が、それぞれ自分に関係するところのみ集中して読むのではないかと思うのである。今年は時間がないため難しいと思うが、研修の場などを活用し、1年かけて現場の声を拾いながら、現場の先生に文章も考えてもらうのが良いのではないかと思った。

また、記載内容についても述べたい。「高い教育理念に基づいた創意ある教育活動の展開」(1)①ア「学校教育目標を理解し教育活動を展開する」や、③ア「管理職は校務分掌における教職員の適正な配置に努める」などは、学校運営上当たり前のことである。当たり前のことでも前提として記載するのが良いという方も、当たり前のことはわざわざ書かなくても良いと思う方もいるかもしれない。そのため、こういった部分も学校教育課だけで決めるのではなく、校長や教頭の意見も聞きながら決めると良いのではないか。学校教育計画は現場の教職員が使うものだということを前提に、学校教育課の指導主事だけが考えるのではなく、学校に投げ返し、現場の先生にも考えてもらう。こうすることで、各分野の担当の先生の勉強にもなると思う。特に小規模校になると、異動に伴って担当が変わることが多い。初めて学習指導担当や人権教育担当になった先生にとっては、まずこの計画を見ながら全体計画を作ることが大切だと考えるので、否応なく見ざるを得ない状況を作り、指導主事と一緒に研修してもらうのが良いのではと感じた。

(稲葉学校教育課課長補佐)

具体策の内容については検討が難しい部分であった。四角で囲まれた部分が、全職員の評価ができると思われる部分であり、学校教育計画の評価ということで、毎年11月ごろに教職員一人ひとりにアンケート調査をしている部分である。先ほど石嶋委員が述べた「管理職は、校務分掌における教職員の適正な配置に努める」の部分は、管理職しか該当しないため、その下の「同僚性を高める」というところが全職員対象の評価項目になっている。

これらの修正内容については、現状、校長から吸い上げたものになっている。今後、記載内容の切り口を変え、担当者会議や研修などを通し、意見の吸い上げや修正を加えていきたい。

(石嶋委員)

もちろん校長から意見を聞くことは必要であるが、一般の先生からも意見を集めたほうが良い。

(石嶋教育長)

校長宛てに送られた学校教育計画をそれぞれ担当の先生に配り、内容を検討させ、そこで出てきた修正部分を報告しているという学校もあった。そのため、一般の先生の意見が全く反映されていないというわけではない。

他に質疑、意見等はあるか。

(永山委員)

「外国語・国際教育の推進」における具体策の部分に、英検などの検定試験について記載したほうが良いのではないか。市として受験費用の補助をしているため、積極的に制度を利用してもらうという観点から、検定試験の利用などについても盛り込むべきかと思う。

(稲葉学校教育課課長補佐)

来年度から小学校まで英検の補助を拡大することを予定して

いるため、小中の学びをつなぐような形で積極的に活用していくといったようなニュアンスで記載ができると良いかと思う。努力目標の「①小中の学びをつなぐ指導の充実を図る」「②グローバル化に対応した国際教育の充実を図る」のどちらに加えるのが良いか。

(永山委員) どちらに加えるかは検討してほしい。予算的な制度があるのにも関わらず、計画では一言も言及してないというのは、少し勿体ないように感じる。

(石崎教育長) このことについて、事務局に検討を求める。
他に質疑・意見等はあるか。

(佐間田委員) 「保護者が相談しやすいよう、校内の組織体制や相談窓口等について周知する」との記載があるが、相談窓口は具体的にどこになるのか。子どもから悩みの相談をされた際、担任に相談をすることになると思うが、電話は心理的なハードルがかなり高く、また、担任と保護者の相性が悪い場合もある。そういった場合はどこに相談をしたら良いのか。相談先を周知することは重要だが、現状、私も明確には分かっていない。

(稲葉学校教育課課長補佐) 市の適応指導教室に関しては、特別支援教育のコーディネーターの先生が窓口になっており、その先生が一般的に相談の窓口になっている場合もある。

(佐間田委員) スクールカウンセラーについてはがきや手紙は配布されるが、一般の保護者からすると、スクールカウンセラーに相談することも、心理的なハードルがかなり高い。

本当は相談をしたいが、これを言ったら先生も大変だろうという意識が保護者にもある。しかし担任以外の相談先については想像がつかない。相談先として指定された先生も困ってしまうのではないかという意識もある。

(石島学校教育課長) 学校によって違うとは思いますが、例えば保健だよりや学校だよりなどに相談先を記載して配布しているところもあった。しかし、色々な書類に相談先がばらばらに書かれていると見落としやすく、わかりにくい。年度初めや教育相談の時期が近いとき、スクールカウンセラーの通知のときに合わせるなど、相談先の配布のタイミングを工夫し、周知をしていくべきであった。このような周知不足の部分が見えたため、今回検討し、記載をした。今後改善し、窓口がどこなのか明記し、保護者に示したい。

(佐間田委員) 現在利用している健康観察アプリの余白部分に、相談の申出を書き込んだりすることは可能か。例えば子どもが少し不安定かなと思うときは、その情報を書き込んだり、先生に相談のアポイントを取りたいときに、そこに書き込んだりしても問題はないのか。

(石島学校教育課長) 既にそういった内容を書き込んでいる方もいる。健康観察ア

プリについては、朝のうちに担任や管理職が確認しているため、電話よりも内容の確認がとりやすい。

(佐間田委員) そういった健康観察アプリの使い方についても、保護者に周知をしてほしい。

(石崎教育長) 数年前、全ての学校において、相談先について周知を徹底した。担任に相談することが難しい場合などは、校内で決めた相談窓口の先生に相談するよう案内した。しかし現在、時間の経過とともに相談窓口が分かりにくくなっている状況である。再度改めて周知の徹底を図りたい。

(永山委員) 各学校に必ず相談窓口はあるが、保護者の方に届いてない可能性があるということか。

(石崎教育長) そのとおりである。

(佐間田委員) 周知の際、学童保育の悩みなどは別部署の管轄になるかと思うため、振り分けて周知をするべきだと考える。

(石島学校教育課長) 学童保育関係は佐間田委員が述べたとおり、こども福祉課が管轄である。特に小学校では、相談先について振り分けて周知しないと、学校に他管轄の相談まで集まってきてしまう。相談について学童保育に情報が届かず、また翌日同じことが起きてしまうなど、情報共有に関して問題が発生していたこともあった。そのため現在、小学校では「学童保育のことは学童保育に連絡し、学校のことは学校に連絡してください」という周知を行っているところである。

また、学童保育と学校、こども福祉課と学校教育課の連携も重要である。学校で感じたモヤモヤを引きずり、その後学童保育でトラブルに発展したり、学童保育で起こったことを引きずり、翌日学校で気持ちが爆発したりという場合もある。そういったことを防ぐため、こども福祉課と学校教育課が情報を共有していきたいと考える。

(佐間田委員) ある小学校には、学校運営協議会に学童保育の先生が入っていたため、こういう形でも連携を図れると良いのではないかと思った。

(永山委員) 佐間田委員の意見に付け加える。以前「登校班に関する相談があり、困っている」という先生の訴えを耳にしたことがある。学校側も、別管轄の相談でも来たからには受ける形になってしまう。そのため、学校教育課長が述べたとおり、学童保育での問題、学校での問題、登校班での問題でそれぞれ相談先を振り分け、しっかり分かる形で案内することが大切だと考える。

(石崎教育長) 登校班についての相談先はどこなのか。

(石島学校教育課長) 登校班は基本的に育成会に任せている小学校が多い。例えばある小学校では、指導部会と育成会の担当者が1月ごろに来校し、来年度の登校班を編制する。決定した班については、育成会

から子どもたちに周知をしている。登校班関係で学校に相談があった場合には、窓口となる育成会の担当者に相談内容について連絡、状況の確認依頼を行い、連携を取っていた。しかし、登校班の決め方は学校によって若干違うため、また改めて確認する。

(永山委員) 先生も、異動前と異動後で登校班に関する対応が違う、といった話をしていたように思う。やはり振り分けをしておく必要があると考える。

(稲葉学校教育課課長補佐) 登校班の問題は、班の組み方のことか、それとも、班の中での人間関係のことか。

(永山委員) 人間関係のことと思われる。

(石崎教育長) 登校班や育成会内で問題が起こっている場合、子どもだけでなく保護者同士がトラブルになっている場合もある。そういったときはPTA、特にPTA会長に間に入ってもらうのが良い。保護者の中にも、何年間もずっと引きずってきた人間関係や確執がある。登校班が一緒になり、付き合わざるを得ない状況に置かれた際、不満が爆発するということが多い。そういった場合にはPTAに間に入ってもらい、問題を解決したこともあった。

他に質疑、意見等はあるか。

(石嶋委員) 下野市学校教育目標の5番に「郷土の文化と伝統・自然に誇りを持ち」とあるが、「郷土の文化・伝統と自然」という形で、文化と伝統を「・」でつなぐのが、使い方として正しいのではないかと感じた。すぐに直してほしいという訳ではないが、確認してほしい。

(稲葉学校教育課課長補佐) 確認し、修正する。

(石崎教育長) 他に質疑、意見等はあるか。

(永山委員) 「6 自分の生き方を考えるキャリア教育の推進」(1)①ウに「自尊感情を育て」とあるが、「自尊感情を育てる」という表現は正しいのか。「自尊感情を大切にし」などが正しいのではないか。

(稲葉学校教育課課長補佐) 「自尊感情を大切にし」や「自尊感情を高め」のほうが自然かと思う。

(石嶋委員) 学習指導要領の使い方に準じて考えるのが良いかと思う。

(石崎教育長) 他に質疑、意見等はあるか。(特になし)

各委員の意見を基に内容の確認、検討をするよう、事務局に求める。

続いて、報告事項に移る。

7. 報告事項

(石崎教育長) (1) 寄附の受入れについて、説明を求める。

(上野教育総務課長) 小山農業協同組合から石橋地区、国分寺地区の小中学校に栃

木県産とちあいか約 3,300 個、宇都宮農業協同組合から南河内地区の小学校、義務教育学校へ栃木県産とちあいか約 2,700 個の寄附があった旨、報告を行う。

(石崎教育長)

質疑等はあるか。

(熊田委員)

今回の寄贈は、1人あたり2個寄贈いただけるところと、1つ寄贈いただけるところに分かれている。全て1人あたり2個ずついただくことは難しいのか。

FMゆうがおで、真岡市がいちごについてアピールをしており、給食で1人2個ずついちごを提供できたと話していた。やはり同様に、1人2個ずつ頂ければと思う。

(上野教育総務課長)

担当者に確認したが、今回の個数変更は難しいとのことであった。今回から寄贈されるいちごが、とちおとめから新品種であるとちあいかに変更になり、個数を確保しきれなかった可能性がある。個数については今後の寄贈においても確認したい。

(石崎教育長)

他に質疑等はあるか。(特になし)

続いて、(2)令和4年度第1回下野市総合教育会議について、説明を求める。

(上野教育総務課長)

市長が招集する総合教育会議の開催通知が届いたためお知らせする。2月17日の教育委員会定例会終了後に303会議室にて開催し、議題は今年度行っている「細谷小学校における小規模特認校の取組に対する検証結果について」である。なお、昨年度は今回同様2月定例会終了後に開催され、議題は「南河内小中学校の開校にあたっての特色ある教育活動等」と「小規模特認校における取組の検証と適正規模等、学校適正配置」についてであった。

(石崎教育長)

質疑等はあるか。(特になし)

続いて、その他の連絡事項に移る。

8. その他

(石崎教育長)

(1)第15回下野市教育のつどいについて、説明を求める。

(上野教育総務課長)

第15回下野市教育のつどいについては、1月21日開催として準備を進めている。本日配布した資料は、調整の結果決定した予定時間を追加したものになる。参加者の受付開始を8時20分からとし、大森史子氏のコンサート公演時間は10時20分から11時20分までの1時間に決定した。子ども未来プロジェクト発表は11時20分から11時50分までの30分間で実施し、閉会予定は11時51分である。なお、教育委員の皆様は8時30分までに参集をお願いする。また、大森氏のコンサート終了時に、大森氏、伴奏の大山氏に花束の贈呈を行う。贈呈については、永山委員と熊田委員をお願いしたい。

(石崎教育長)

まず、「第15回下野市教育のつどい」開催の可否について意

見等はあるか。

なお、今回開催できれば3年ぶりの開催となる。350名中150名ということで、会場定員の43%プラスアルファ程度に人数は絞っている。また、基本的な感染症対策は取った上で開催する予定である。

(石嶋委員) 受賞者の保護者に対し、人数を絞るなどの入場制限はするのか。

(上野教育総務課長) 保護者については、入場制限をする予定はない。ただし、団体受賞の方については、極力代表の方のみの出席をお願いしているところである。

(石嶋教育長) 参加者を150人に絞るとのことか。

(上野教育総務課長) 参加人数を積み上げたところ、150人には満たないという計算になった。

(石嶋委員) 教育委員会表彰に似た形式の表彰式に先日出席したのだが、小学生の受賞者に対しては、保護者が弟や妹を連れてくることが多かった。弟と妹を別の席に座らせるわけにもいかないため、急遽椅子を増やして対応していた。そのため、もし制限がないのであれば、ある程度臨時で増やせる椅子を用意しておいたほうが良いかと思う。

(上野教育総務課長) 国分寺公民館の大ホールはドアの数も多いため、全て開けたままにし、換気などの感染症対策を行う。なお、公民館はエアコンが備え付けられているため、ドアを開けておいても温度管理は可能である。席についても、念のため外の通路に予備の椅子を準備し、臨時で増やすことができるよう準備する。

(永山委員) 前回開催時の参加者の人数は把握しているか。

(上野教育総務課長) 把握できていない。

(熊田委員) 前は南河内公民館で実施し、国分寺公民館よりも会場は狭かったが、そこまで密集していなかったように記憶している。

(永山委員) 150人という参加人数は、席の間隔を1つ分空けて並べると、150席作ることができるという計算でよろしいか。

(上野教育総務課長) そのとおりである。席の間隔を空けずに、3本の通路を間に作るだけならば300脚の椅子を並べられるのだが、感染症対策のため間を分けて並べるとということで、150という数に設定している。

(熊田委員) 感染症対策として、検温や消毒は実施するのか。

(上野教育総務課長) 会場に入る際にまず検温の機械を通ってもらい、受付に消毒用のスプレー等を準備する。

(熊田委員) 近頃、咽頭痛などの風邪の症状のみ出ており、発熱はないという方でも、陽性の方が増えてきているようである。受付において喉の痛みや咳はないか確認し、もし風邪症状がある場合は入場を断ったほうが良いかと思う。受付担当者も言いにくいとは思

- うが。
- (永山委員) パンフレットはもう完成しているのか。
(上野教育総務課長) 現在作成中である。来週初頭には完成する。
(永山委員) 現在作成中ということならば、パンフレットに「喉の痛み、咳、鼻水、発熱などの症状のある方は、ご出席をご遠慮ください」など、一言添えるのが良いのではないか。
- (熊田委員) 倦怠感なども加えたほうが良いかと思う。
(石崎教育長) パンフレットだけでなく、その他に周知方法はないのか。様々な形で周知してほしい。
- (上野教育総務課長) 例えば、ホームページや市のメール配信、その他可能であればFMなどを活用し、周知したい。
- (永山委員) その他、各学校にも個別に要請してほしい。「風邪の症状のある方は、出席を見合わせてください」と受賞者に周知するよう依頼するのが良いかと思う。その上であれば、今年度の教育のつどいは実施すべきかと思う。
- (石崎教育長) 各委員の意見を基にして、感染症対策について徹底するよう、事務局に求める。
開催については以上でよろしいか。(全委員承認)
その他、意見等はあるか。
- (熊田委員) 以前、教育のつどいを開催した際、教育委員会定例会にて原稿を貰い、呼名の練習をしてから本番に臨んだ。念のため、原稿は当日ではなく、事前に配布してほしい。
- (上野教育総務課長) 至急準備する。
(石崎教育長) 他に意見等はあるか。(特になし)
続いて、(2)令和4年度第1回下野市総合教育会議についてについて、説明を求める。
- (上野教育総務課長) 前回の協議結果を下野市PTA連絡協議会と調整し、準備を進めてきた。2月17日の総合教育会議終了後、休憩と夕食を挟み、午後6時30分から開会する。テーマは「これからの学校教育とPTA活動について」。約1時間30分の懇談を予定している。また、座長は永山委員にお願いしたいと考えている。
- (石崎教育長) それではまず、開催の可否について意見等はあるか。
(永山委員) PTA連絡協議会の方々の反応はどうか。
(上野教育総務課長) 実施をする方向で今のところは進んでおり、双方準備している状況である。
- (石崎教育長) 確認した時期はいつ頃か。
(上野教育総務課長) 12月中旬頃である。
(石崎教育長) 1か月ほど経過しているが、いかがか。
(石嶋委員) 教育のつどいも開催するため、今の時点では、これからよほど状況が厳しくならない限りは実施するのが良いのではないか。あまり期間を空けてしまうと、懇談会をどのように実施してい

- たのか忘れてしまう可能性がある。
- (石崎教育長) それでは、開催する方向でよろしいか。(全委員承認)
その他、懇談会について質疑等はあるか。
- (熊田委員) 今回、懇談会のテーマは、市PTA連絡協議会の方から上がってきたものなのか。
- (上野教育総務課長) そのとおりである。
- (熊田委員) テーマが漠然としているため、懇談会をどのように進めていくのか見通しが立ちづらいと感じた。
- (佐間田委員) PTA役員何人かと話したとき、コロナ禍により行事の実施方法が変わったり、中止になったりしてしまい、代替わりのタイミングで引継ぎをしようとしても、そもそも行事をあまりやることがないため、引継ぎが上手くできないという状況を聞いた。経験が全く無い状態で新しく行事を実施することに不安を感じているようであった。
- (石嶋委員) 例えば中学校の卒業式なども、1、2年生では新型コロナウイルス対策のために出席できず、主役の3年生になって初めて出られるというような状況である。
- (熊田委員) ではまず、PTAの皆さんの意見や悩みを傾聴し、それから話を進めていくという形になるのか。
- (上野教育総務課長) そのとおりである。意見や悩みを聞き、もしアドバイスや支援などがあれば、教育委員の皆様からお願いしたい。
- (佐間田委員) 運動会や文化祭などを、今後どのように開催していくのかについて、PTAも方向性やある程度の目安を聞きたいのではないか。
- (石嶋委員) 資料は誰が作るのか。
- (熊田委員) 今回はPTA連絡協議会からの議題であるため、資料は無いかと思う。教育委員会からのテーマの提示であれば、事前に事務局が資料を作り、説明を40分ほど行い、その後PTAの意見を聞くという流れであるが。
- (石嶋委員) PTA連絡協議会側に資料を作ってもらうのは無理でも、PTA連絡協議会に何か資料は必要か聞いてみるのが良いのではないか。PTA側が提示した議題だからとはいえ、いきなりPTA側に意見を聞いても、議論が活発化しない可能性がある。
- (熊田委員) 以前PTA側から議題が出された際には資料の準備はなく、PTA側に意見を聞き、挙手の上話してもらった形で実施した。「自分の学校はこのテーマに関してはこのような感じですが、他の学校はいかがですか」とそれぞれが発表をするような形であった。
- (永山委員) 形式としては、学校訪問の際に実施する教職員との懇談会に近い。その規模が少し大きくなったような形である。
- (石嶋委員) しかし、先ほど佐間田委員が述べたとおり、PTA活動に関し

- てあまり経験のない方たちもいるようである。
- (熊田委員) ベテランのPTA会長もおり、全員がPTA活動に関して経験がないわけではないと思う。
- (石崎教育長) 代替わりの際、行事の実施方法が上手く引き継がれないという件についてである。以前勤務していたとある学校では、先代PTA会長と先々代のPTA会長が顧問として残り、PTA本部役員会に毎回出席していた。その上で、PTA活動の実施方法について教示、助言を行っていた。今、こういった形を取ることは難しいかもしれないが、1つの方法として提示する。
- (佐間田委員) 現在、PTA役員の数が減っている学校もあるかと思う。PTA活動について、悩んでいる方も多いのではないかと思う。
- (石崎教育長) 他に意見等はあるか。(特になし)
- (上野教育総務課長) それでは、事務局から他に連絡事項等はあるか。
- 令和5年度栃木県への要望事項の調査についてである。例年、県教育委員会連合会が要望事項を取りまとめ、7月に知事、県教育長、県議会議長へ要望している。その要望書案を5月の県教育委員会連合会総会の際に審議するため、各市町に調査が届いている。提出期限は2月22日であり、2月17日の定例会で審議するため、2月10日までに意見の提示をお願いする。参考資料として一昨年度作成分、昨年度作成分の要望事項を添付した。
- (石崎教育長) 質疑等はあるか。
- (佐間田委員) 現状の確認のため質問する。特別支援学級での介助に当たっている支援員は、毎日学校に来ているのか。
- (石島学校教育課長) 支援員は毎日学校に来ている。身体的な介助に入っている支援員、心理的な介助に入っている支援員など、学校の実態に応じて対応は様々である。
- (佐間田委員) 看護師はチームで患者を持つが、このように介助の支援員も、パートタイム2名で1名の介助をするといったことはできないのか。常勤は難しいという方でも、パートタイムならば働ける方がいるのではないかと感じたため、述べた。
- (石崎教育長) 他に質疑等はあるか。
- (永山委員) 会議の冒頭の教育長報告に対して、熊田委員から過員についての質問があった。そのことについて事務局でまとめ、要望事項として上げてほしい。また、前回に引き続き特別支援学級の編制基準の児童生徒の定数引き下げについての要望も上げてほしい。
- (石崎教育長) 他に質疑等はあるか。(特になし)
- 他に事務局から連絡事項等はあるか。(特になし)
- それでは、教育委員の皆様から連絡事項等はあるか。
- (熊田委員) 2月に例年行われる教育委員会臨時会の日程が決まっていれば知らせてほしい。
- (石崎教育長) 2月28日に開催する。下都賀地区教育長部会の最終回であ

る後期第9回が13時から15時まで、その後下都賀地区教育委員会連合会定例会が15時から16時30分までになるため、第2回教育委員会臨時会については17時からの予定とする。

他に教育委員の皆様から連絡事項等はあるか。

(佐間田委員)

感想になるが、述べたい。成人式の出席率が74.57%と高く、素晴らしいと感じた。昔の友人たちに会いたいと思い、故郷に帰ってくる生徒が全体の4分の3に上るということは、それこそ学校の先生、中学校の教育への評価なのではないかと思う。先生方に感謝したい。

(浅香生涯学習文化課長)

今回提示した641名の対象者は、住民基本台帳から確認しているため、単純に20歳である方、つまり外国から来ている方々も含まれているため、実際の参加率はもう少し高いのではないかと思う。

(佐間田委員)

素晴らしいと思う。ぜひ先生方にも伝えてほしい。

(石崎教育長)

他に教育委員の皆様から連絡事項等はあるか。(特になし)

それでは、以上でよろしいか。(全委員承認)

次回の教育委員会は、2月17日(金)午後1時からの予定とする。

本日の議事日程は全て終了した旨を告げ、午後3時30分閉会。

議事録作成者

議事録署名人

議事録署名人